

成田市教育委員会会議事録

平成30年9月成田市教育委員会会議定例会

期 日 平成30年9月26日 開会：午後2時 閉会：午後3時38分

会 場 成田市役所3階 第二応接室

教育長及び出席委員

教 育 長	関 川 義 雄
委 員 (教育長職務代理者)	小 川 新太郎
委 員	高 木 久美子
委 員	佐 藤 勲
委 員	片 岡 佳 苗

出席職員

教育部長	宮 崎 由紀男
教育部参事	神 山 金 男
教育総務課長	清 水 活 次
学校施設課長	篠 塚 正 人
学務課長	高 梨 哲 生
教育指導課長	高 安 輝 司
生涯学習課長	神 崎 良 浩
学校給食センター所長	椿 弘 志
公民館長	谷 平 裕 美
図書館長兼視聴覚サービスセンター所長	田 中 美 季
スポーツ振興課オリンピック・ パラリンピック推進室長	出 山 耕 一
教育総務課長補佐 (書記)	篠 塚 康 孝

傍聴人：0人

1. 教育長開会宣言

2. 署名委員の指名 小川新太郎委員、片岡佳苗委員

3. 前回議事録の承認

4. 教育長報告

主催事業等

○8月27日 平成30年度 成田市中学校全国・関東大会出場選手報告会について

市内の中学校から、関東大会や全国大会に出場した生徒たち33名が市長を表敬訪問し、それぞれの大会での状況を報告してくれました。33名と、例年に比べ、出場選手が多かったのは、西中学校のバスケットボール、中台中学校の卓球、それぞれ団体戦で関東大会に進んだことによります。団体で関東大会に進むということは、本当に大変なことで、生徒たちの努力はもちろんのこと、指導して下さった顧問の先生や、各家庭の応援があったからだと思います。今、中学校では部活動の長時間活動が問題となり、なかなか思うような活動はできなくなりつつありますが、短時間で効率よく、科学的なトレーニングを取り入れるなど、これまでとは違った取り組みが期待されています。

スポーツ界では、様々な種目でパワハラやセクハラの問題が噴出していますが、中学校の部活動は、将来の人間形成につながるような取り組みが第一であることを念頭に置き、大会での好成績を目指して生徒主体の練習方法を確立させることが大切だと考えています。パワハラやセクハラは、指導者の思い上がりや、立場を悪用した、許し難い行為です。各校の校長には、自校の職員について、このことをしっかりと周知し、十分注意して活動を見守るよう指導していきたいと思います。

○9月1日 明治大学・成田社会人大学3課程合同特別研修について

恒例となった明治大学での特別研修。今年は、64人の参加で、例年よりだいぶ少なくなってしまったのはとても残念でした。大型バス2台と中型バス1台で明治大学に向かいました。今回は、午前中に、明治大学混声合唱団「さわらびコール」と、フリースタイルフットボールサークル「Pelusa」、それに、「明治大学ニューウェーブジャズオーケストラ」の演奏や

発表を見せていただき、午後からは、記念講演として、「がんと遺伝を正しく知る。人生100年時代のセルフメディケーション」と題して、NPO法人クラヴィスアルクスの理事であり、一般社団法人ゲノム医療当事者団体連合会理事長の太宰牧子さんのお話を伺ってきました。太宰さんは1968年、東京都で生まれ、2011年に左乳がんを発症。2008年に当時40歳だった姉を卵巣がんで亡くしたこともあり、自身の手術前に遺伝子検査を受けることを決意。BRCA1遺伝子に変異が認められ、遺伝性乳がん卵巣がんと診断されました。術後3年を経過した2014年に、日本で初めて遺伝性乳がん卵巣がんの当事者会を立ち上げ、2015年10月には東京都からNPO法人の認証を受けました。現在は、全国各地で医療者と当事者を結ぶネットワーク作りと、先進医療、保険収載、法整備に向けて社会的環境整備の体制づくりを進めている方です。2010年女優のアンジェリーナ・ジョリーが、遺伝子検査を行い、がんを発病する可能性があることを知り、発病前に、乳房の切除、そして、その2年後に卵巣の切除をし、話題を呼んだことは皆さんもご存じだと思います。私はニュースでなんとなく知ってはいましたが、どういういきさつがあったのか、そこまでは把握していませんでした。太宰さんは、染色体、DNA、遺伝子などの専門的なお話もたくさんさいましたが、要は、遺伝子を検査することによって、遺伝性の乳がんと卵巣がんを発症するリスクがあるか否かを知ることができるということ。知ったならば、予防切除してがんを発症させることなく、生きることができるということを、広く多くの方に知ってほしいという強い思いから、各地でこうした講演を行っているとのことでした。

がんは身近な病気ですが、遺伝子検査でここまでわかるということまでは知りませんでした。この検査、保険診療ができず、多額の費用がかかるのが難点だということだそうですが、太宰さんたちは、今、この検査を保険診療でできるようにするため、活動を行っているとのことでした。今回もそうでしたが、明治大学では、普段、なかなか聞けない話を聞けて、本当に勉強になりました。

○9月8日 中学校体育祭参観について

中学校体育祭、私は、吾妻中、遠山中、それに下総みどり学園の3校を見学いたしました。中学校の体育祭は、生徒が伸び伸びと活動できる場であり、学校の勢いを感じたり、逆に、生徒指導上の課題が浮き彫りになるような場でもあります。私が見た3校では、それぞれ、生徒のひたむきな気持ち、態度が前面に出て、大変良い雰囲気を感じ取ることができました。ところが、ある学校では、3年生の150メートル走で、全くやる気のない走りをした一組があったため、これを見ていた校長先生が、ゴールした生徒たちのところに駆け寄り、直接、生徒を

指導し、やり直しをさせる場面に遭遇しました。大勢の方々が見守る中でのとっさの対応でした。果たして、これを見ていた方々は、どう評価されたのでしょうか。私は、その場その場の思いつきの対応では、決して生徒を健全に育てることはできないだろうと感じました。体育祭のような学校行事には、どういう態度で参加すべきなのか、事前に生徒たちと意見を交わし、気持ちを高めていく必要があります。たまたま出会った場面でしたが、後味の悪い一場面となりました。教育委員の皆様も、それぞれのお立場で体育祭を参観されておられると思いますので、後ほど、その状況をお聞きしたいと思います。

○9月23日 第26回成田市小学生相撲大会について

第26回目となる市内の小学生相撲大会がありました。今年は93名の小学生が参加しました。学校対抗の団体戦と、学年ごとに個人戦が行われましたが、この相撲大会は男女の区別がありませんので、男子対女子という戦いもあって、他の大会とはまた一味違った雰囲気があります。団体戦には4校8チームの出場がありましたが、毎年、参加者が一番多いのは加良部小学校です。今年は橋賀台小学校も初めて参加しました。例年参加していた成田小学校は、運動会の日程の関係でしょうか、今年は参加者が2年生の個人戦に一人参加しただけでした。「成田市」と銘打って開催している割には参加校が少なく、果たしてこのまま続けていけるものなのか疑問に思いますが、他市にはない素晴らしい相撲場を持っている成田市としては、何とか継続していきたい行事です。団体戦も個人戦もそれぞれトーナメント方式での戦いになり、一度負けたら後がないということで、一瞬のうちに勝敗が決することもあって、なかなか目が離せない試合が続きました。私は午前中だけ出席し、大会の様子を見ていましたが、今年も低学年の子が多く参加し、応援には、出場選手の家族でしょうか、大勢の方がお見えになっておられました。

市議会

○8月31日～9月27日 平成30年9月定例会について

今回の議会では、9月末で任期満了となる佐藤委員と私の二人につきまして、引き続き、それぞれ、教育委員、教育長に任命する人事案件が議会に提出され、佐藤委員は満場一致、私は賛成多数で可決されました。私の任期は本年10月1日から3年間、佐藤委員は4年間となります。なお、今議会では、教育委員会から提案した議案は特にありませんでしたが、一般質問では、9人の議員から様々な質問を受けたところです。特に、今回は、異常気象ともいえる暑さに関連し、暑さ対策としての夏休み期間の問題。また、大阪府で発生した地震により倒

壊したブロック塀の下敷きとなって児童が死亡したことから、学校のブロック塀の点検、改修、通学路など市内のブロック塀の点検、改修問題等々、多くの質問が出されました。それぞれ、本委員会会議でも報告しているとおりに、現状で実施している状況をお伝えしたところです。

○9月12日 教育民生常任委員会

常任委員会では、教育委員会からの提出議案、報告等はなかったのですが、市民からの学校給食費無料化に関する陳情が1件ありました。このことについては、無料化できなければその理由について文書で保護者に通知することを求めたり、無料化する場合であっても市の広報で公表すること、などといった要求があり、議会として、これを陳情書として取り上げることに適さないとの意見が出て、陳情については、全会一致で却下されました。

○9月18日～20日 決算特別委員会

決算特別委員会では、質問事項が多く、当初の予定どおりにはなかなか進まず、教育費の歳出については、審査に2時間半ほどの時間がかかりました。

この中で、市費単独で学校に配置している養護補助員や特別支援教育支援員の人数が足りていないのではないか、などの指摘を受けました。このことについては、以前から指摘を受けているところであり、現在も限られた予算の中でやりくりしている実情がありますが、今後は、必要とされる人員配置をしたいと願いつつ、学校の指導体制の強化も図らなければならないと考えています。

また、学校サポート教員を配置したことによって、学力はどの程度向上したのか、との質問もいただきましたが、配置した場合と配置しなかった場合とを同列に比較できないため、この質問には数値で応えることはできません。ただ、配置したからこそできる学校の指導体制がある訳で、生徒指導の分野で、あるいは、教育相談の分野で、そして少人数指導や個別指導の分野で、学校には数値で表せないほど大きな支援となっていることは明白で、教員の校務負担の軽減にも大切な役割を果たしているものと思っていると回答させていただきました。

その他

○8月23日 栄養士との意見交換会について

普段、なかなか話を聞くことのできない学校給食センターや学校給食共同調理場の栄養士の皆さんが集まり、意見交換を実施する機会がありました。親子方式の学校給食共同調理場が、

順次、整備されつつありますが、これに伴って市に配置される県費負担栄養士の数も増えており、現在は9名となっています。実は、市町村合併後、しばらくは旧体制どおり、下総、大栄の各給食センターには、栄養士の他に市職員が、それぞれ1名配置されていたのですが、親子方式の学校給食共同調理場が整備された時点で、下総、大栄の給食センターから常勤の市職員がいなくなり、代わって非常勤の職員が週当たり3日程度配置されるようになりました。このことが栄養士の皆さんの自由度をかなり狭めている現実があり、同時に、現場の声が反映されにくくなったのではないかと、私自身も感じるようになったため、こうした意見交換会を行うことにしたわけです。今回の話し合いでは、大栄の給食センターで、幼・小・中の給食をつくらしている現状を改善しなければならないという問題。玉造学校給食センターから配食される小学校では、ご飯を平皿で食べているという不自然な状況の改善。多くの調理場で課題となっている、特定の仕入れ業者による食材の品質管理について等、多くの課題が挙げられました。その全てをすぐに改善できるわけではありませんが、美味しくて温かい、安全・安心な給食を提供するという視点で、できる限り早く改善を進めていかなければならないと感じた次第です。

○8月24日 「ESDとユネスコスクール研修会」について

成田ユネスコ協会主催の研修会に参加しました。内容は、表題のとおり、ESDとユネスコスクールについて、千葉県の現状を伺った後、市内のユネスコスクール3校による実践発表がありました。3校とは、公津の杜小、玉造中、下総高のことです。たまたま、小・中・高からそれぞれ1校ずつとなりましたが、玉造中と下総高からは生徒が参加し、発表してくれました。ユネスコスクールだから何か特別な取り組みをしているというわけでもありませんが、ボランティア活動への積極的な参加、普段の教育活動をESDの取り組みに関連させて行っている、というようなところに違いがあります。ただ、全ての学校において、特にESDを意識しているわけではありませんが、ほぼ同様な取り組みを行っていることから、多くの学校ではユネスコスクールに加盟しようとする意識が低いのが現状です。ユネスコスクールについては、正式に加盟するには様々な手続きがあり、正式認証に時間もかかることから、全国的には加盟校が増えているとは言っても、県内や市内では、それほど積極的に加盟しようとする学校がないのが実情です。

○9月3日 千葉県教育庁北総教育事務所との平成30年度末人事異動構想情報交換について

早いもので、もう人事異動の話が始まりました。もっとも、まだ、管理職の配置について、県が市の状況をヒアリングしている程度ですが、次年度に限らず、数年先に渡って管理職をど

う配置していくかはしっかりと計画を立てているところです。問題は、管理職になるには、県の管理職選考に合格しなければならないという点です。あたりまえの話ですが、希望すれば管理職になれるわけではなく、筆答試験、面接試験を通して、管理職としての資質が見られるわけです。この試験がとても難しく、本市では、これまで、校長、教頭それぞれ大変低い合格率でした。そのためか、一昨年に比べて昨年は管理職選考受験者も減少傾向にありました。今年はどうなるか、この選考結果次第で本市の管理職登用の計画が変わってきます。県の人事担当者も、先を見据えた選考結果を出せるよう努めていることとは思いますが、それぞれの市町村の教育委員会の要望をもっと重視した選考の在り方を模索してほしいと願っているところです。

○9月13日 平成30年度千葉県教育庁北総教育事務所指導室訪問（吾妻中学校）について

体育祭が終わったばかりの吾妻中で指導室訪問があり、私も授業等を参観しました。吾妻中では、どの学級も生徒が大変落ち着いて授業を受けている姿が見られ、感心したところですが、普段は、それぞれ様々な課題があり学校も大変苦労しながら学校運営を続けています。吾妻中は、吾妻小の急激な児童数の増加に伴い、今後しばらくは生徒数が増加していきます。生徒数の増加は部活動数の増加につながり、これまで多く見られた、部活動を理由にした指定学校変更が少しずつ減っていくものと思いますが、部活動数が増えて大変になるのは学校です。増えた分だけ抱える課題も増えるものです。学校の教育力の向上には私たち教育委員会の後押しが大事です。各種研修の充実だけでなく、適切な人事配置、課題解決のための支援等、教育委員会の果たすべき役割をきちんと果たしていけるようにしたいと思います。

○9月15日 「第5回成田伝統芸能まつり」について

成田山新勝寺総門前特設ステージで、第5回目を迎える伝統芸能まつりのオープニングセレモニーがあり、私も出席しました。今年も台湾桃園市から舞踊団が来日し、オープニングを飾ってくれました。あいにくの雨で、気の毒な感じではありましたが、雨をものともせず、懸命に演じていただくことができました。この「まつり」には、日本各地から著名な踊りを演じる方々がお見えになっており、2日間、参道を中心に賑やかに舞っていただきました。ご覧になられた委員の方もおられたことと思います。

○9月22日 市川海老蔵「古典への誘い」成田公演について

成田市ご案内人の市川海老蔵丈が、年に一度、成田で公演するという一大イベントで、今年

も大変大勢の観客が国際文化会館にお出でになりました。私も最初の公演を参観させていただきました。客席は、ほぼ満席の状態でしたが、若干空席があったかなという印象です。しかし、この日の2回目の公演には空席がかなりあったと伺っています。公演内容も、最初に太鼓の演奏が15分程度あり、その後に海老蔵の挨拶がありましたが、肝心の海老蔵が出演するのは二幕目の「蛇柳」だけ。その時間も短く、昨年にと比べるとやや面白みに欠けた内容だったかもしれません。それでも地方では、本物の歌舞伎を見る機会はそう多くはありません。こうした公演を通して歌舞伎ファンが増えればよいなと思いました。

○9月25日 「第73回国民体育大会」「第18回全国障害者スポーツ大会」出場選手成田市 壮行会について

福井県で開催される「第73回国民体育大会」と「第18回全国障害者スポーツ大会」へ千葉県代表として出場する成田市出身の選手、あるいは成田市内の高校や企業から出場する選手の壮行会があり、私も出席しました。今年度の国体には17名、障害者スポーツ大会には1名の参加があり、この日は、14名の選手が来庁されました。種目は、アーチェリー、クレール射撃、水泳、ボウリング、陸上競技、バレーボール、体操、ボクシング、車椅子陸上の各種目です。今年も成田高校の選手が多く選抜されていましたが、車椅子の陸上競技100メートルと200メートルに出場される小川奈那選手は、毎年、市の教育委員会表彰で名前が挙がる方です。今まで、表彰式には、多分、お出でになったことがなかったのではないのでしょうか。私も障害者スポーツ大会の100メートルと200メートルで活躍されていたことは知っていましたが、種目が車椅子のレースだったとまでは、知りませんでした。どうか本番の大会でも、優勝目指して頑張ってください、今度は是非、表彰式にお出でいただきたいと思いました。

参加される皆さんの活躍を期待したいと思います。

○9月25日 平成30年度成田スポーツフェスティバル第1回実行委員会について

今年は10月6日に開催されるスポーツフェスティバルですが、その第1回目の実行委員会が開催されました。私は、主管課である生涯スポーツ課が、教育委員会部局から市長部局に移りスポーツ振興課になっても、以前と変わらず大会副会長となっておりますので、この実行委員会に出席してまいりました。実行委員会事務局から、スポーツフェスティバルへの参加申し込みを締め切った段階で、参加申し込みチーム数は233チーム、参加申込者数が3,124名と報告がありました。これは、昨年の同時期に比べ、チーム数は38チームも減っているのに対し、参加申込者数は277名も増えているとのことでした。1チーム当たりの人数が昨年

同時期よりかなり多いという計算になります。昨年は、あいにくの雨で実際に競技に参加した数はもっと少なかったのですが、今年はどうなるでしょうか。良い天気のもと、参加された皆さんにゆっくり楽しんでもらいたいと思っています。大会の種目はこれまでと同様ですが、今年はお昼休みの時間帯に、よしもとクリエイティブ・エージェンシー「ふるさとアスリート」プロジェクト登録のDIANAのメンバー4名が、ダブルダッチの演技を10分程度披露してくださることになっているようです。このグループは、ダブルダッチでギネスブックに載る回数を跳んだグループということですので、とても楽しみです。

教育委員の皆様には、昨年度からは来賓という立場でお出で願っておりますが、是非、今年もお越し願えればと思います。

以上、報告とさせていただきます。

《教育長報告に対する意見・質疑》

佐藤委員：教育長からお話がありましたとおり、もう1期、教育委員をさせていただくことになりまして、大変ありがたく思うと同時に、更に勉強をしていかなければならないなと、身を引き締めているところでございます。これからもご指導の程よろしく願いいたします。

8日の体育祭ですが、今年は、午前中に成田中、中台中、玉造中、午後から大栄中ということで、4校を参観しました。大栄中以外の学校は初めて行きましたが、どの学校も、職員も生徒たちも明るく行っていましたので、学校の雰囲気はいいなと感じました。特に感心したのは成田中で、日暮校長先生の話の中で、応援団長などの紹介において生徒の個人名も言ってあげていたことです。個人を大切にしている姿勢が見られ、そういったことが積み重なっていくことで良い学校になっていくのかなと感じました。また、玉造中ですが、運動会の資料の中に学校便りがたくさん入っていて、かなりの頻度で学校便りを作成しているという、その一生懸命さが伝わってきて、校長先生のお力があるのだな、ありがたいなと思いました。全体的には、徒競走などについては、これまでどおりの内容なのだと思いますが、見せる体育祭というようなものではなく、もっとスポーツ大会のようにといたしますか、参加する生徒が楽しめるような方向の企画をされてもいいのかなと思いました。私の母校の昭栄中では、それぞれが得意な種目に出て、スポーツ大会形式で行われていましたが、これは自慢できることだと思っています。

小川委員：体育祭についてですが、9月8日、公津の杜中に行きました。どの学年も一生懸命に頑張っている姿が見られました。9月9日、西中に行きました。西中の体育祭は、1日遅れての開催でしたが、徒競走等を見ますと、陸上競技の西中という伝統が残っているように感じられました。どの生徒も、本当に一生懸命に頑張っていて、応援の方も、赤白、甲乙つけ難いほど頑張っている様子がうかがえました。

また、9月16日、雨天のため1日順延で開催された公津小の運動会ですが、児童数がだいぶ少なくなってしまったものの、子どもたちの一生懸命な姿を見て、小さくても頑張っているなと思いました。

高木委員：体育祭ですが、9月8日に成田中を参観しました。風が強い日でしたが、平成最後の体育祭ということで、生徒も先生方も、競技や応援に一生懸命に取り組む姿があって、清々しい印象を受けました。また、9月22日、成田小に伺いました。雨が心配されましたので、雨天プログラムで行われていましたが、6年生が準備や移動を走って行って、きびきびとした姿が見られました。たけのこダンスを毎年楽しみにしていますが、昨年まで担当されていた井上先生にも手を振っていたりして、皆さん楽しそうに、今年は「U.S.A.」を踊っていました。校長先生も一緒に懸命に踊られていました。

先程、教育長報告の中で、栄養士さんとの意見交換会のお話がありましたが、美郷台小の共同調理場の進捗状況について教えていただきたいのと、市川海老蔵「古典への誘い」の講演の前日に、中学生親子を対象とした歌舞伎講座があったようで、娘と一緒にケーブルテレビで拝見していましたが、参加者が非常に少なくて驚きました。せっかく市川海老蔵さんがいらしていただいているのに、あのような企画はいかなものかと思いました。

議長：では、最初に、美郷台小の共同調理場について説明をお願いします。

椿学校給食センター所長：美郷台小の共同調理場につきましては、平成32年度に供用開始の予定でして、工事の契約等について12月市議会に議案として提出し、ご承認いただいた後、契約が成立しましたら着手するという事で進めております。美郷台小の共同調理場の規模ですが、食数ですと、1,477食の提供を予定しており、内訳は、美郷台

小が434食、成田小が952食、八生小が91食、面積は、延べ床面積で1,121平方メートルの予定で進めております。

議 長：次に、歌舞伎講座に関してですが、こちらについては教育委員会では関与しておりませんので、自由参加ということであったようですが、参加者がそんなに少なかったということはわかりませんでした。

片岡委員：今年度、体育祭については、都合がつかなくて参観できませんでしたが、来年度は是非、参観したいと思います。

栄養士さんとの意見交換会に関してですが、昨日の給食メニューはカレーで、メキシカンカレーというものでした。カレー好きの息子は喜んで登校したのですが、普段のカレーよりも凄く辛かったようで、クラスでも食べられない子が多かったと言っておりました。メニューについては、栄養士さんの方で栄養面をよく考えていただいて作成しているとは思いますが、キムチのスープとか辛いものを出すときは、苦手な子、特に低学年の子のことをもう少し考えていただいて、香辛料を控えめにした方がいいのかなと思いました。

椿学校給食センター所長：昨日のメニューについてですが、少しピリッとした後味の残るカレーでした。チリソースを加えたようなイメージのものです。基本的に、玉造給食センターで低学年から高学年を対象に調理しております関係で、できるだけ辛みを抑えるような調理をしているところですが、低学年のお子さんだと少しピリッとしただけでも食べづらいということもありますので、ただ今のご意見を栄養士の方に伝えたいと思います。

議 長：栄養士さんたちは、いろいろな料理を提供して子どもたちに知ってもらいたいという思いがあったり、家庭でもできる給食メニューのようなものを作って配布したりという努力をしております。ただ、献立を作る栄養士さんによって、それぞれの思いがあったり、味とマッチしていなかったりというようなこともあるのかも知れません。栄養士さんとの機会がありましたら、そのような話もしたいと思います。

5. 議 事

(1) 議 案

議案第2号及び報告第1号については、成田市教育委員会会議規則第20条第1項第1号の規定により非公開により審議する。

議案第1号 「平成30年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について」

清水教育総務課長：

議案第1号 平成30年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について、ご説明いたします。教育委員会表彰につきましては、成田市教育委員会教育功労者表彰規則に基づき、本市における教育、学術又は文化の振興に関し、特に功績の顕著であった個人又は団体に対して教育委員会が表彰を行うこととなっております。

また、表彰者の決定に際しては、同規則第9条により教育委員会の議決を経て決定することとなっておりますので、関係各課より報告を受けた表彰予定者をもって決定してよろしいかお伺いするものであります。

それでは、議案資料をご覧いただきたいと思っております。はじめに、功労彰の表彰予定者としましては、2ページ及び3ページにお示しします8名となります。藤倉國男 様、保津治道 様は、学校医として20年、鈴木正徳 様、阿部祐幸 様、高橋洋樹 様は、学校歯科医として20年、眞鍋知史 様は、学校薬剤師として20年の事績が功労彰の対象となったものです。

また、正岡宗之 様、中村智裕 様は、教育委員会が委嘱する非常勤特別職として、社会教育委員、学校給食センター運営委員会委員として、それぞれ10年以上の事績が功労彰の対象となっております。

次に、4ページ及び5ページが功績彰の対象であり、個人4名と団体2チームの計6件となります。こちらの方々は、スポーツ活動において、公的機関等の主催する大会におきまして、小・中学生においては、全国大会入賞または関東大会3位以内の入賞、高校生・社会人においては、全国大会3位以内の入賞と、特に優秀な成績を残された方々であります。

以上、功労彰と功績彰、合計14の個人・団体を推薦させていただきます。

次に、6ページから7ページは、表彰式における表彰の対象ではありませんが、表彰内規により担当課において表彰いたします感謝状及び奨励賞であります。

6ページの感謝状においては、教育委員会が委嘱する非常勤特別職として8年以上の事績による方が1名、7ページの奨励賞については、公的機関等の主催するスポーツ大会において、関東大会での入賞や全国大会出場の事績を残された方々4名の合計5名となっております。

なお、今後のスケジュールですが、10月9日に市表彰審査委員会への諮問、11月1日に庁議への報告が予定されております。今回の議案の提案時期が表彰式2か月前となりますが、今月29日から開催される福井県での国民体育大会をはじめ、今後開催される大会等において優秀な成績を残され、新たに推薦を受ける場合もございます。その場合は追加議案として提案させていただきますので、予めご了承いただきたいと思います。

以上が議案第1号の説明となりますが、本年度の成田市表彰式は、11月15日、木曜日に市役所大会議室で開催いたします。開始時間は、午前を予定しておりますが、時間が確定次第、改めてご案内させていただきますので、委員の皆様のご出席をお願いいたします。

よろしくご審議のほど、お願いいたします。

《議案第1号に対する質疑》

佐藤委員：小学校の1年生と3年生が功績彰の方に記載されていますが、小学校低学年の児童を表彰することは、規定からすると、この表彰案のとおりなのですが、高校生の事績内容等と比較すると、学年ごとの対戦における結果によって、功績彰として表彰することは、個人的には少しどうなのかなと思います。

清水教育総務課長：小学校1年の児童につきましても、都の大会を勝ち抜いて関東大会に出場し、3位に入賞していますので、功績彰として表彰する選考基準を満たしております。

小川委員：私は武道関係のスポーツが大変好きなのですが、この小学生の空手道というのは、全国大会もありまして、テレビでも放映されています。組手と形がありますが、小学1年生でありながら、すごい選手がたくさんいて、1年生でもこんなことができるのかと感心しながらテレビで観戦しました。それでも、1年生と6年生を比べたら、当然のことながら6年生には太刀打ちできません。ですから、これだけ素晴らしい技術や技を持っている子どもは、空手に限らず、小学1年生から6年生までそれぞれの学年ごとに対戦しなければ危険だと思いますし、また、奨励する意味からも、小学1年生を表彰することは良いことだと思います。

佐藤委員：奨励するということですから、私は、功績彰ではなく奨励賞でもいいのではないかなという気がします。小学校の低学年児童に対しては、奨励賞の方がふさわしいのでは

ないかと思えます。

議 長：奨励賞についてですが、空手の全国大会で入賞している児童がいますが、この児童は関東大会でもいい成績を収めているのではないですか。

出山スポーツ振興課オリンピック・パラリンピック推進室長：この児童の推薦に係る報告書によりますと、県大会で3位入賞の事績はありますが、関東大会についての事績はありません。表彰候補者を推薦するにあたって、各学校に報告を依頼する際には、表彰に係る規則及び内規を添付しておりますので、その辺りについて漏れはないと思えます。

議 長：表彰につきましては、規定に沿って行っておりますので、選考基準に該当する者については表彰をするということになります。今後、規定の内容について、ご意見等がございましたら、お寄せいただきたいと思います。

高木委員：功績彰ですが、スポーツ関連の方ばかりとなっておりますが、文化面の方はいらっしゃらないのでしょうか。

清水教育総務課長：現在までのところでは、文化面の方の報告はありません。今後、大会やコンクール等が開催されて該当がありましたら、追加議案として提案させていただきます。

議 長：コンクール等は秋口に行われることが多いので、この先、報告がある可能性が高いと思えます。その他、ご質問等ございますか。ないようですので、議案第1号「平成30年度成田市教育委員会功労彰・功績彰表彰者（案）について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

<これより非公開>

議案第2号 「成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について」

高安教育指導課長：

議案第2号、成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について、ご説明させていただきます。本議案は、成田市心身障害児教育支援委員の任期が平成30年9月30日をもって満了するため、成田市心身障害児教育支援委員会条例第3条第2項の規定により、8名の委員を新たに委嘱しようとするものです。

なお、任期につきましては、平成30年10月1日から平成32年9月30日までの2年となります。

選出区分第1号の小中学校学校医として、國保能彦 國保医院院長と伊藤けい子 けいこうクリニック院長にお願いしたいと考えております。國保院長は、吾妻小学校、玉造中学校の学校医を務め、平成10年より就学指導委員会委員を務めていただいております。豊富なご経験と精神科医として専門的な立場からご意見をいただくとともに、現在は会長として委員会をまとめていただいております。伊藤院長は、公津の杜小学校の学校医を務め、平成20年より就学指導委員会委員を務めていただいております。小児科医として専門的な立場からご意見をいただいております。

選出区分第2号の小中学校長として、藤田総 成田市立久住小学校長と佐々木英夫 成田市立遠山中学校長に引き続きお願いしたいと考えております。藤田校長は、平成22年度から平成24年度までの3年間、成田市教育委員会に在職され、平成24年度には就学担当として特別支援教育を含めた業務を経験されており、現在は校長として校内の就学指導についてもご尽力されております。佐々木校長は、平成12年度から平成15年度までの4年間、成田市教育委員会に在職され、平成12年度には就学相談も担当され、特別支援教育を含めた業務を経験されており、現在は校長として校内の特別支援教育についてもご尽力されております。

選出区分第3号の小中学校特別支援学級担任教員として、村井佳織 成田市立本城小学校教諭と亀田真季 成田小学校教諭に引き続きお願いしたいと考えております。村井教諭は、千葉県立印旛特別支援学校、千葉盲学校に勤務した後、市内の特別支援学級の担任として勤務しております。現在は、成田市立本城小学校の知的障害特別支援学級の担任を務めております。特別支援教育に関する豊富な経験と知識を有しており、平成27年度は成田市教育推進特別支援教育研究部の研究部長、市内の特別支援教育のリーダーとしても活躍しております。亀田教諭は、特別支援学級担任経験が長く、千葉県教育委員会特別支援教育課指導主事、千葉県教育委員会企画管理部教育政策課主査としての勤務経験があり、現在は、難聴特別支援学級の担任とともに特別支援コーディネーターとして活躍しております。両名とも、特別な支援を要する児童生徒に対する幅広い知識と豊かな経験を有し、成田市心身障害児教育支援委員としてふさわしい

と考えます。

選出区分第4号の識見を有する者として、吉田英男 栄特別支援学校校長と岩瀬広幸 香取特別支援学校校長にお願いしたいと考えております。吉田校長は、長年、小学校に勤務され、特別支援学級の担任も経験された後、教頭として富里特別支援学校に赴任されました。現在は、栄特別支援学校の校長として勤務されており、特別な支援が必要と思われる児童生徒の教育相談や市内小中学校教職員への研修会など、成田市をはじめ、地域の特別支援教育を中心となって推進されております。岩瀬校長は、現在勤務されております千葉県立香取特別支援学校をはじめ、印旛特別支援学校など、特別支援学校に勤務されております。また、習志野市教育委員会で行政にも関わられており、豊富な経験と知識を有しております。障害者の福祉・就労への識見、その保護者とのかかわり合い等、特別支援教育全般に渡る幅広い見地から、的確な助言をいただけるものと思います。

以上、ご審議の程、よろしくお願ひいたします。

《議案第2号に対する質疑》

佐藤委員：第4号の委員についてですが、印旛管内に富里特別支援学校がありますが、栄特別支援学校と香取特別支援学校の校長ということで固定なのでしょうか。

高安教育指導課長：本市の児童生徒が通っている特別支援学校のうち、栄特別支援学校と香取特別支援学校に本市の児童生徒が多く通っていることから、この2校の校長先生にお願いするという事で考えております。

議長：その他、ご質問等ございますか。特にないようですので、議案第2号「成田市心身障害児教育支援委員会委員の委嘱について」を採決いたします。本議案に賛成の委員は挙手を願います。

挙手全員であります。よって、本案は承認されました。

(2) 報告事項

報告第1号 「成田市生涯学習推進協議会委員の委嘱について」

神崎生涯学習課長：

それでは、報告第1号 成田市生涯学習推進協議会委員の委嘱について、ご報告させていただきます。今回は、平成29年10月1日より同協議会委員として、生涯学習の推進にご尽力いただいております委員がお亡くなりになり欠員が生じたため、成田市校長会から新たに吾妻中学校長の川崎秀雄様をご推薦いただきましたことから、成田市生涯学習推進協議会設置条例第3条第2項の規定により委嘱したものです。

任期につきましては、同条例第4条第2項の規定に基づき、前任者の残任期間である平成30年5月8日から平成31年9月30日までとなります。

《報告第1号に対する質疑》

特になし

<非公開を解く>

報告第2号 「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について」

高安教育指導課長：

平成30年度全国学力・学習状況調査につきましては、平成30年4月17日、小学校6年生及び中学校3年生を実施対象として行われました。実施教科は、国語、算数・数学、理科の3教科で、質問紙調査による学習習慣や生活習慣等の調査も実施いたしました。

今年度の結果につきまして、はじめに小学6年生の調査結果についてご説明いたします。小学6年生の資料をご覧ください。まず、教科別平均正答率についてですが、国語につきましては、知識を問うA問題は全国平均とほぼ同程度で、活用を問うB問題は昨年度と比べると改善は見られたものの、平均をやや下回りました。算数につきましては、A問題、B問題ともに全国平均を下回り、特に活用を問うB問題は、大きく下回りました。理科につきましては、県平

均、全国平均のいずれも上回りました。分野別平均正答率のレーダーチャートを見ると、本市の児童は記述式の問題を苦手としていることが読み取れます。

次に、裏面をご覧ください。児童質問紙には60問ほどの質問がありますが、その中から特に重要だと思われる10問ほどを抜き出し、本市の回答結果とクロス集計による分析を掲載いたしました。本市の児童の課題としては、家で計画を立てて勉強している児童の割合が低いこと、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が少ないことなどが挙げられます。特に、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問については、4割以上の児童が「していない」または「あまりしていない」と回答しています。クロス集計に注目すると、計画的な学習が身に付いている児童と身に付いていない児童では、平均正答率に大きな開きが生じました。

続きまして、中学3年生の調査結果について説明いたします。中学3年生の資料をご覧ください。国語につきましては、A問題、B問題共に全国平均をやや上回りました。数学につきましては、A問題は全国平均と同程度で、B問題は昨年度から大きく向上し、全国平均を上回りました。理科につきましては、全国平均をやや下回りました。また、分野別平均正答率のレーダーチャートによると、数学において、記述式の正答率が県平均及び全国平均を上回りました。

次に、生徒質問紙の回答状況とクロス集計による分析についてご説明いたします。裏面をご覧ください。生徒質問紙の回答から読み取れる本市の生徒の優れた点といたしましては、「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して「とても当てはまる」と回答した生徒の割合が全国平均と比べて高いこと、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」生徒の割合が高いことが挙げられます。一方で課題としては、地域について調べたり、地域の人と関わったりした経験が全国平均と比べて著しく少ないこと、朝食を毎日食べている生徒の割合が全国平均と比べて低いことなどが挙げられます。クロス集計による分析についてですが、学力の高い生徒の傾向として、自己肯定感が高いこと、規則正しい生活や家庭学習の習慣がよく身に付いていること、課題に対して主体的に考え、追究していることなどが結果から読み取れました。

教育委員会といたしましては、今年度も、教育センターだより等を通して、学力向上に成果を挙げている学校の実践例を紹介し、取り組みを広げていきたいと考えております。また、リーフレットにつきましては、市全体の平均正答率及び傾向、対策について、グラフや文章で作成、配布し、学力向上に向けて学校、保護者に周知してまいります。

各学校の調査結果につきましては、文科省から各学校に直接送付されております。各学校は、それを受けて、期末保護者会や学校便り等を通じて、自校の傾向と対策について、配布し公表するようお願いしております。自校の調査結果を基に学習指導の改善を図るよう、校長会議を

通じて各学校に依頼してまいります。

《報告第2号に対する質疑》

小川委員：この調査結果において、小学校6年生と中学校3年生を比べて何が違うかと言うと、小学校6年生の方が全国と比べて低いということです。国語を見てみますと、記述式と短答式、算数だと、記述式と活用が低くなっています。以前から、学校訪問等において、校長の学校経営説明の中で、書く力がやや弱いということを挙げていましたので、書く力をつけることを徹底してやるべきではないかと思います。例えば、毎日、日記を書くようにするとか、担任の先生は少し大変になるかもしれませんが、何か書く力をつけることをしっかりとやっていく必要があると思います。

また、小学生の方では、先程、説明にもありましたが、家庭での学習習慣が身に付いていないのではないかと思います。一方、中学生の方は、家庭での学習習慣が身に付いている生徒の割合が高くなっていますので、その辺りが学力に表れているのではないのでしょうか。

また、今回の中学校3年生が小学校6年生のときの調査結果、平成27年度の結果を見ますと、国語A、Bそして算数A、Bのいずれも全国平均より高かったことから、今回、中学校3年生の時点での調査結果も、それが維持されていると考えられます。あと、朝食を必ず食べるということが重要で、家庭学習や授業に主体的に取り組み、物事に興味関心を持つことが学力向上の根本ではないかと思いますので、保護者の方にも、各学校を通じて伝えていただきたいと思います。

高木委員：各家庭に調査結果が配布されるということですが、夏休み前に配布されていますか。

高安教育指導課長：夏休み期間中に各学校に配布されていると思います。

高木委員：この調査は4月に実施されていますので、夏休み前に各家庭に配布できるとよいのではないのでしょうか。保護者としても、例えば12月頃に結果のリーフレットをいた

だいても、中学校3年生は既に進路が決まっていますので、この調査結果を家庭で生かすのであれば、できれば夏休み前に配布していただきたいと思います。

高安教育指導課長：委員のおっしゃることはそのとおりであると思うのですが、文科省が全国で実施している調査ですので、文科省から学校の方に結果が届くのが夏休み期間中となっております。

佐藤委員：分析するのは時間がかかるとは思いますが、平均点であるとか、数字だけならすぐに結果が出ると思います。学校で活用するために、数字だけでも、先にデータを送ってくださるようにお願いできないのでしょうか。

高安教育指導課長：そのようなことが可能であるのかわかりませんが、全国的な調査であることから難しいと思われま。

小川委員：どのようにすれば子どもたちが一生懸命に勉強することができるのか、学力が向上するのか、この調査対象の学年以外の保護者や幼児を持つ保護者に対しても伝えて、どういう習慣を付ければ子どもは勉強に興味関心を持てるのか、学習意欲を高められるのか、この調査結果を十分に活用していただきたいと思います。

佐藤委員：小学校の算数の授業等では、ほとんどの学校で等質のクラス分けをしていると聞きますが、学校訪問で行った大栄中では、苦手な子と進んでいる子で分けて授業を行っていました。クラスを分けるのであれば、やはり習熟度で分けないと、あまり意味がないのではないかと管理主事の先生に話をしましたところ、主体的な学習といっても、そこにたどり着くまでの基礎学力が身に付いていなければ、スタートラインに立てないというような話をされていました。等質でクラス分けをしている校長先生に話を聞きますと、習熟度によるクラス分けは保護者からの理解を得にくいことから、等質のクラス分けを行っているようです。クラスを分けることで、少人数での学習ができま

すので、等質のクラス分けでもそれなりの効果はあると思いますが、やはり、苦手な子に劣等感を感じさせないような、何か上手なやり方で、習熟度別のクラスで学習するようにした方が、学力の向上につながるのではないかと思います。

議 長：この調査結果は、市内の学校の平均値ですので、学校別に見ますと、かなりの差があります。ですから、この結果については、全ての学校にあてはまるということではありません。また、地域差もあります。傾向としては、例年同じような結果となっておりますので、学校としては、このような傾向があるということを十分把握していると思います。どうすれば具体的に学力を高めていけるのかということについて、自校の成績を基にして、しっかりと研究していただき、教育委員会からも、こういったやり方がありますというようなことを積極的に紹介していきたいと思います。

今回の全国調査は、小学校6年生と中学校3年生に限った調査でしたが、全学年を対象とした市の学力調査もありますので、今後、そちらの方の結果についても紹介させていただきたいと思います。

なお、今回の調査の問題を見てみましましたところ、どのように答えたらいいのか、なかなかわかりづらい問題がありまして、この問題が思考力を測るのに本当に適しているのか疑問に感じたというようなこともありました。

今後も、委員の皆様から忌憚のないご意見を伺わせていただいて、成田市の子どもの学力向上につなげていきたいと思っています。

6. 教育長閉会宣言